



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第26回例会(1月22日)
平成28年1月29日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例会場 同上 TEL(651)1111(代)
例会日 毎週金曜日12時30分～

会長 岩野 法光
幹事 吉江 信博
会報 福田 荘介
クラブ事務局 TEL(653)5682
FAX(653)5622

Be a gift to the world. '世界へのプレゼントになろう'…………… K. R. ラビンドラン

新入会員卓話



中国に学ぶ

東京海上日動火災保険(株) 盛岡支店長
早坂 靖志君

1. はじめに

本日は「中国に学ぶ」と題してお話させていただきたいと思います。

昨年4月まで延べ12年間、中国に駐在しておりましたので、翻弄する「日中関係」「日系企業の奮闘ぶり」そして最後に「中国に学ぶ」の3つの構成でお話させていただこうと思っております。

あらかじめ申し上げますが、これは個人的な考えであって、決して裏打ちされた内容でないこと。政治的にも宗教的にも意図はないことをご了解ください。

2. 経歴

私は1963年に仙台で生まれ、1985年に入社し、いくつかの部署を経て、延べ12年間、盛岡に赴任する昨年4月まで中国に駐在しておりました。一回目の中国駐在では台湾、香港、大連、蘇州、上海に駐在し、一旦日本に帰国した後、二度目の駐在では北京と、再度上海に駐在しました。

実は盛岡に参りまして、このような中国駐在経験者は珍しいということなのか、既にいくつかの団体から、中国に関する講演の依頼を受け講演を行ってきました。今日で5回目となります。お聞きいただくメンバーがずいぶん重なり、毎回内容を少しずつ変えてきています。ご参考までにこれまで盛岡でお話した内容をご紹介します。専門に勉強していたわけではありませんので、大した内容ではありませんが、実際に駐在していた人間の印象をまとめた話で

す。「駐在員の仕事と生活」「中国人に対するマネジメント」「中国の食文化と酒文化」「共産党体制」「中国経済の展望とリスクシナリオ」「習近平政府の経済政策」、来月は何と「少林寺拳法」について話をさせていただくことになっていきます。

3. 日中関係

さて、まず日中関係についてお話しします。中国の一般庶民は日中関係をどのように思っているのでしょうか? ご存知の通り、小学校から反日教育を受けています。しかしこれは中国における愛国主義の為に行われたもので、国家統一の手段としてこの反日運動が利用されておりました。

最近では政治腐敗や格差問題が発生し、庶民の目を外に向けさせることを目的にしていると言われてます。しかしポイントは中流階級以上の中国の一般庶民の、日本に対する意識は報道されている内容とは随分違うということですので。でなければ、わざわざ高いお金を払って日本に旅行して「爆買」するわけもなく、更には何度も日本に足を運び、日本全国津々浦々まで旅行することが流行トレンドになることはないのです。

先週松川温泉に行ってきたのですが、なんとそこにも中国人旅行者の団体がいました。話しかけてみると上海からの5回目の訪日旅行で、今回は東北の温泉巡りをしているとのことでした。一度日本に来た中国人の殆どが、日本人のやさしさと綺麗な自然に魅了され、日本を好き

になっているのです。外交に於ける「草の根交流の大切さ」を感じざるを得ません。

次に中国政府がなぜ靖国問題にこだわるかを説明いたします。現在、中国における日中間の最大の問題は「尖閣諸島問題」ではありません。「日本の歴史認識問題」なのです。これは中国に行くまで私も知らなかったのですが、日中国交回復に関わる中国共産党の立ち位置に由来します。当時、中国は旧ソビエトやアメリカとの関係もあり日本との国交回復を望んでいました。時の毛沢東と周恩来、そして田中角栄との大英断ですが、中国共産党は「戦争を起こしたのは日本の一部の軍人であり、一般の日本国民は無関係」と国民を説き伏せて国家賠償を一切放棄して、日中国交樹立を優先した訳です。従ってA級戦犯が合祀されている靖国神社に日本の最高指導者が参拝することを認めてしまうと、自国民に説明がつかない訳で、靖国問題は中国政府にとっては絶対に譲れない訳です。

どの中国人も自国の為に戦争で亡くなった方々を一国の首相がお参りすることは当然だと言っています。日本は亡くなった方はみな神様との宗教的考えが根底にあります。中国を含む他国では罪人は死んでも罪人という意識は一般的で、この辺が靖国問題の難しいところかと思えます。

後ほど触れますが、中国のビジネスにおいて政府の官僚と仲良くなることは重要です。中国の外務省に友人ができ、彼とゴルフをしていた時に彼が言っていたのですが、日本と中国は引越してできない隣人であり、日本にとって中国は最大の貿易相手国である。中国にとっても日本はアメリカに次ぐ第二の貿易相手国であり切っても切れない関係。まるで夫婦同士のような関係であり、夫婦はよくケンカする。でも最悪の関係にならないように、うまく関係を維持することが重要だと言っていました。まさにその通りだと感じました。

4. 日系企業の奮闘

次に中国での日本企業の奮闘ぶりについて紹介します。まず我々が突き当たるのは中国の独特な商習慣です。儒教の教えに従う共通の価値観と暗黙のルールです。特に相手への裏切りについてです。中国では血縁関係、地縁関係が一番信頼できると言う儒教文化の倫理基盤から、逆に他人は裏切れる存在であって、かつ警戒すべき裏切られる対象でもあるということです。

従って商売を行うにあたり一番大切なことは、如何に裏切られないようにするかということです。そのためには酒を酌み交わし、ゴルフをして個人的付き合いをする。それから家族付き合いをする。更に中国の会社は儒教の考えより、同族会社形態が基本ですので血縁者にアプローチすることが非常に重要になるわけです。

中国では一般的に「金持ち」とは「人間持ち」と言われていますが、人脈形成が成功の基本であり、人脈に投資することが成功の近道だという明確な経営哲学があります。一番強い人脈は政府官僚との人脈です。従って我々日系企業も商売相手に裏切られない存在となるためにも、政府官僚との人脈作りが非常に重要になるわけです。

もう少し商習慣について話しますと、「商談に先方のトップが出てこない場合にはやる気がないと思うべき」です。中国ではトップ自ら説明し、その場で決断していきます。特に値段交渉はこの傾向が顕著です。日系企業は部下に説明させて、値段交渉も事前に事務方に任せ、最後にトップが登場…と考えていると大失敗となります。

中国人は結論こそ重要、余計なプロセスは不要であり、ましてや挨拶のみの訪問は嫌います。ここを理解できない日系企業のトップが多い…わが社も…。

中国商習慣の一部をご紹介しましたが、中国商習慣の理解は非常に難しいものです。中国企業やリテール向け商売を行うには長期駐在者か、個人的にも家族付き合いのできた信頼できる相手との合弁が不可欠です。そして中国への貢献も不可欠なのです。我々も政府機関とつながりを築き、その政府機関を通じて中国の子供たちへのボランティア活動を長年行ってきています。でもこれでも不十分でした。

5. 中国に学ぶ

最後に中国に駐在し「おかしい」と思うことも多かったのですが、中国に「学ぶべきこと」も多かったのでいくつかご紹介します。

中国人の血縁者以外の人間との関係は「義理人情」により結びついているということです。信頼できる関係を構築するための努力は厭わないのです。プライベートや家族関係構築は勿論、義兄弟の契りを交わす関係構築に全力を尽くすのです。

またかつてお世話になった人への義理も決し

て忘れません。中国では「井戸を掘った人を忘れない」という教えを耳にします。田中角栄が中国で今でも称えられているのはその教えによるものです。これらの人々を裏切ることは、決して許されないのです。

また中国ビジネスというか新興国ビジネスの三条件は ①スピード ②フレキシブル ③挑戦・チャレンジ精神です。中国は特に顕著です。それはトップダウンの体質であり、頻繁に行われる法制変更、急激な環境変化、官僚からの密な情報収集などの要因によるものと思われます。これは一長一短がありますが、現在の変化のスピードを考えた時にはこの三条件は大事な要素であり、そこに乗らないと我々日系企業も成功できないということになります。

中国人はハングリーであり、上昇志向に際限がありません。どんなに豊かになっても勤勉に働き、勉強します。退社後せつせと高い授業料を払い大学院に通う部下が沢山いました。

また男女同権です。形だけの同権ではありません

せん。箸やお茶碗までも男女で大きさが異なる文化は日本だけかもしれません。

6. 終わりに

ラッキーなことに中国にて生活ができ、自分が「異邦人」の環境に身を置き、また長期間滞在のおかげで中国語を話せるようになり、多くのことを感じる機会を与えてもらえました。「日本の常識が世界の非常識」が何と多いことかということにも驚かされました。

隣国の夫婦のような関係の中国とは、上手に友好関係築く必要があります。僕の知り合った中国人は個人的には本当にいい奴らであり、日本に悪い印象を持っている人間はごく一部でした。「日中間の懸け橋になる」などという大それたことは思っておりませんが、僕が感じた中国そのものをできるだけご紹介し、日中友好の一助になることを願っております。

ご清聴ありがとうございました。

エッセイ

「匂い・臭い・ニオイ」

ちば耳鼻咽喉科クリニック 千葉 隆史

海外旅行でその国の空港に降り立つと、異国に着いたんだなあと感じる。それは空港の風景や周りの人々の違いだけではなく、空港内においの違いを感じることによるのもあろう。国の入り口の空港のにおいはその国を印象付けるものである。北京空港ではニラやラー油の、韓国の空港ではキムチや唐辛子のにおいが、インドではカレーのにおいではなく、空気がねっとりとしているためか甘酸っぱいにおいや汗臭いにおいがするという。かつて日本では魚や醤油のにおいがすると外国人に言われたものである。しかしこれらはその国の人自身は気付かないものである。

宇宙飛行士の若田光一さんは2009年7月、4ヶ月にわたる長期の宇宙ステーション滞在を終えケネディ宇宙センターに戻った時、地球のにおいに迎えられた喜びをこう表現している。「ハッチが開くと地球の草の香りがシャ

トルの中に入ってきました。やさしく地球に迎えられたような感じがしました。」換気ができない宇宙ステーションの中のニオイ環境は良いものではないと聞く。地球の空気から4ヶ月間隔絶され、ステーションの空気に浸かって過ごした若田さんの嗅覚はふるさと地球のにおいに強く反応したのだ。若田さんが感じたのは森や草原の発するさわやかな緑の香りだったのだろう。この緑の香りはフィトンチッドという香気成分である。これは地球の周りを薄く覆い、緩やかな抗菌作用を持つと同時に人の気持ちを鎮静化する効果もある。私たちは毎日、意識する・しないにかかわらずこの地球のにおいの恩恵を受けているのである。これからもこのふるさとのおいの基の森林や草原を一層大切にしたいものである。